

新宿ビル通信設備見学会（説明会概要・質疑応答）



日時	2019 年 2 月 19 日（火）14:30～16:40
場所	KDDI 新宿ビル（東京都新宿区）
内容	当社通信ネットワークを運用・監視する各センターや、光ファイバー設備などの見学、質疑応答
登壇者	代表取締役執行役員副社長 技術統括本部 内田統括本部長 理事 技術統括本部 運用本部 奥山本部長 運用本部 モバイルオペレーションセンター 古畑センター長 グローバル技術・運用本部 グローバルネットワーク・オペレーションセンター 原田副センター長 ネットワーク技術本部 ネットワーク開通部 川上部長

当社の取組み説明

奥山運用本部長より、当社の国内・海外のインフラ及び運用保守体制を説明。設備の冗長化・複線化の仕組みや人員体制など、事業基盤となる通信インフラを 24 時間 365 日途切れることなく守る運用体制について解説。また大規模災害に備えた災害復旧訓練の実施内容、過去の災害時の具体的な取組みをご紹介します。有事の際にもライフラインとしていち早く通信手段を復旧・維持する当社の取組みについて参加者にご理解いただきました。

設備の見学

au のモバイル通信の監視運用を行う「モバイルオペレーションセンター」、海外の通信の監視運用を行う「グローバルネットワーク・オペレーションセンター」、光ファイバーケ

ーブル等を敷設する地下の「洞道」の 3 カ所を、設備の解説を交えて見学しました。

<参加者のご感想>



世界中のネットワーク運用状況を良く理解することができた

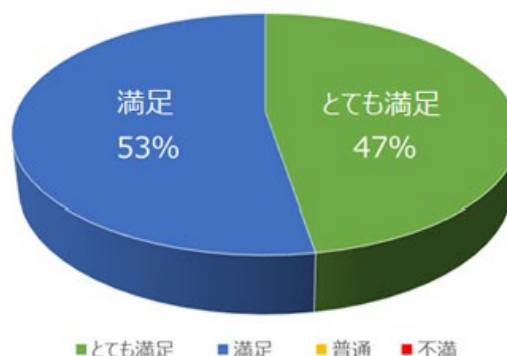


あらためて総合通信事業者であること、インフラを守るために多くのことに取り組んでいることが理解できた。



大ゾーン基地局によって、災害時に東京エリアが十分にカバーされていることを知った。

<参加者の満足度>



質疑応答

質問者 1

Q. 5G では基地局が増加すると思うが、運用体制やコストについて教えてほしい。また、楽天が導入を予定している仮想化技術をどう見ているか。

A. 5G の本格化に備え、細分化している業務の標準化やプロセスの最適化を図り、自動化を推進している。基地局が増加しても、運用コストはそれに連動した形では単純に増加しないと考えている。

仮想化技術については、方向性は正しいが、快適な通信環境を提供する上での課題は多いと見ている。当社では 4,000 万超のお客さまにご利用いただいております。障害や突発的なトラフィックにも対応できるように慎重に取り組んでいきたいと考えている。

質問者 2

Q. 運用保守の国際拠点（GNOC）にベトナムがあるが、ベトナムに拠点を設けた理由は何か？

A. 東南アジアには個人・法人のお客さまが多く、運用保守拠点を設置したいと考えていた。東南アジア各国での設置を総合的に検討した結果、ベトナムに設置するに至った。

質問者 3

Q. IoT 世界基盤と現状のネットワークの運用体制の違いは何か？

A. IoT 世界基盤では世界各地のネットワークを複雑に組み合わせることになるため、新宿に専担の運用体制を設置し、対地毎の状況に応じて海外のパートナーとの連携

強化を進めている。

質問者 4

Q. KDDI のネットワークを運用保守している人員の規模感を教えてほしい。また、海底ケーブル事業の足元の競争環境を教えてほしい。

A. 具体的な人数は申し上げられないが、当社社員のほか、業務委託先やパートナー様も業務にあたっており、業務量に応じて人員の見直しを図っている。

海底ケーブル事業については、過去にはトラフィックの爆発的な需要拡大を想定し、投資を目的として異業種も参入したが、現在は通信容量の確保の技術も進み、一部 OTT 事業者がトラフィック確保のために参入しているものの、競争環境は安定している。